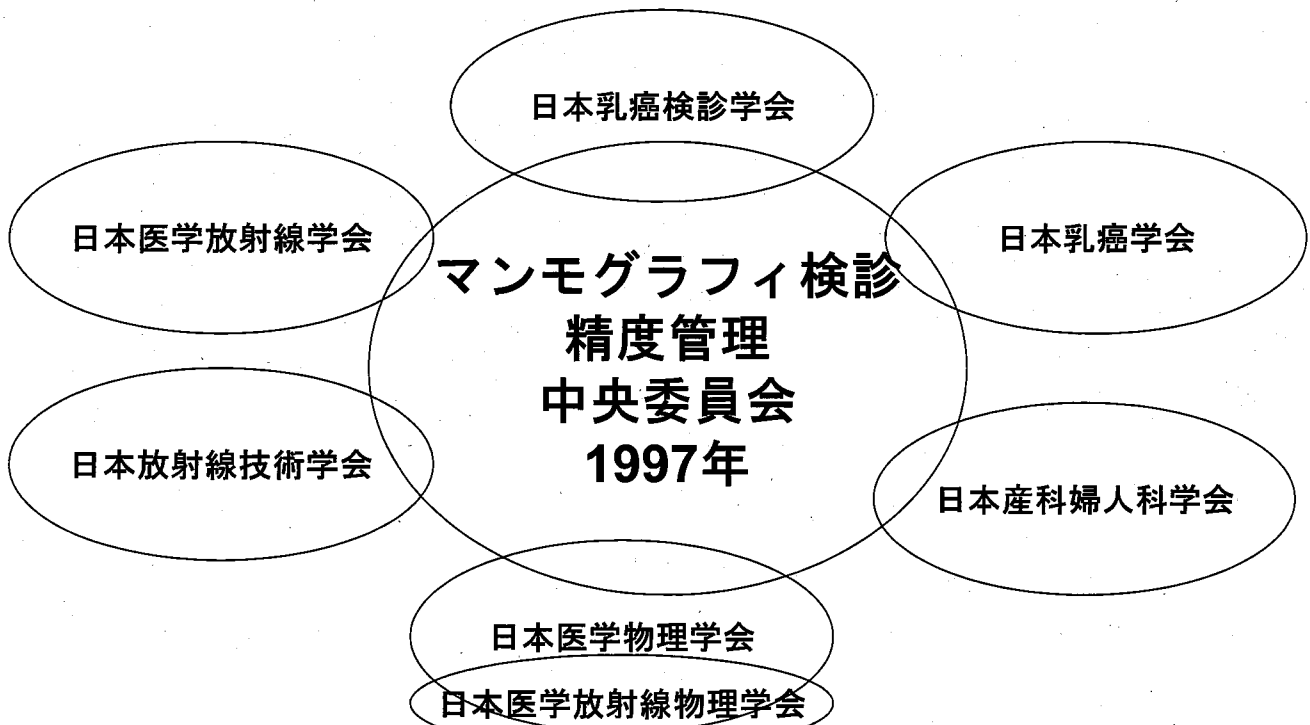


乳がん検診の精度管理における NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構 の役割

NPO法人日本乳がん検診
精度管理中央機構理事長
遠藤 登喜子

NPO法人日本乳がん検診精度管理 中央機構設立の経緯



1997年設立 平成16年NPO法人化

マンモグラフィ読影講習会

教材の貸与による講習内容の保障

講師トレーニングによるレベルの保障

1
日
目

- 09:00 講義1 乳がん検診へのマンモグラフィ導入と精度管理
09:30 講義2 乳がんの病理と画像
10:20 講義3 乳がんの臨床
11:20 講義4 マンモグラフィの基礎・撮影技術・被曝リスク
12:50 講義5 マンモグラム所見用語とカテゴリー分類1
13:40 講義6 マンモグラム所見用語とカテゴリー分類2
14:50～19:15 グループ講習1～4

2
日
目

- 08:45～11:55 グループ講習5～7
13:15～15:15 マンモグラム読影試験(100例:120分)
15:30 読影試験見直し・質問(試験会場)
15:50 閉講式

読影試験の評価基準

評価A:感度90%以上、特異度92%以上

うちカテゴリー感度85%以上をASとする

第2読影者(読影責任者)および講習会講師として
活躍を期待される

評価B-1:感度80%以上、特異度80%以上

評価B-2:感度80%以上、感度+特異度170%以上

検診マンモグラムの第1読影者として活躍を期待される

評価C:感度70%以上、特異度70%以上

評価B以上の読影者とともに読影する

評価D:上記に達しないもの

さらに研鑽を積むことを期待される

* 2007年4月より、5年更新制スタート

(5年に1度は試験を受け実力の維持を示す)

マンモグラフィ技術講習会

1
日
目

08:45~09:30	講義1 乳がんの臨床と病理
09:30~10:40	講義2 マンモグラフィの基礎
10:50~12:00	講義3 読影の基礎とカテゴリー分類
12:50~16:20	グループ学習5コマ 読影実習1・2・ポジショニング1・2・3
16:40~17:40	読影試験
17:40~17:55	読影試験の解説
18:05~19:05	グループ学習 臨床画像評価

2
日
目

08:30~12:50	グループ学習5コマ 機器管理・線量線質・画像管理・現像処理・デジタル管理
13:50~14:40	筆記試験
15:15	閉講式

DMGソフトコピー診断講習会プログラム

8:55~9:35	講義1	モニタ読影診断の基本
9:35~10:50	講義2	デジタルマンモグラフィ その種類、構成と特性
10:55~11:30	講義3	デジタル画像の流れと表示 および モニタの特性
11:30~12:10	講義4	マンモグラフィCADと トモシンセシスの概要
12:10~12:15		午後のオリエンテーション
12:45~16:50	実習	モニタ使用 4時間
16:50~	閉講式	受講証の発行

実習プログラム 2014.9月より

モニタ 実習	12:45 ~ 13:00	13:00 ~ 13:35	13:35 ~ 14:10	14:10 ~ 14:45	14:50 ~ 15:05	15:05 ~ 15:40	15:40 ~ 16:15	16:15 ~ 16:50
	巡回	実習1	実習2	ミニ 試験	巡回	実習1	実習2	ミニ 試験
	A・B・C				D・E・F			
	12:45 ~ 13:25	13:25 ~ 14:05	14:05 ~ 14:45	14:50 ~ 15:30	15:30 ~ 16:10	16:10 ~ 16:50		
CAD	D	F	E	A	C	B		
トモ	E	D	F	B	A	C		
モニタ 評価	F	E	D	C	B	A		

マンモグラフィ部門 読影委員会 H25年度事業報告

- 講習会 23回 (主催4回共催19回)
- 更新講習会 7回 (主催4回共催3回)
- ランクアップ試験 4回
- ソフトコピー診断講習会 7回
- US検査技師のための読影講習会 1回
- 学会共催企画
第21回乳癌学会 第22回検診学会

マンモグラフィ部門 技術委員会 H25年度事業報告

- 講習会 19回（主催2回共催17回）
- 更新講習会 14回
- ランクアップ試験 4回
- デジタルマンモ品質管理講習会 7回
- 学会共催企画
第21回乳癌学会 第22回検診学会

日本乳がん検診精度管理中央機構 マンモグラフィ講習会受講者と評価

(2014年12月31日現在)

	A	B	C	D	合計
読影部門	3,092	10,597	2,801	1,260	17,750
技術部門	7,623	5,806	2,825	1,843	18,097

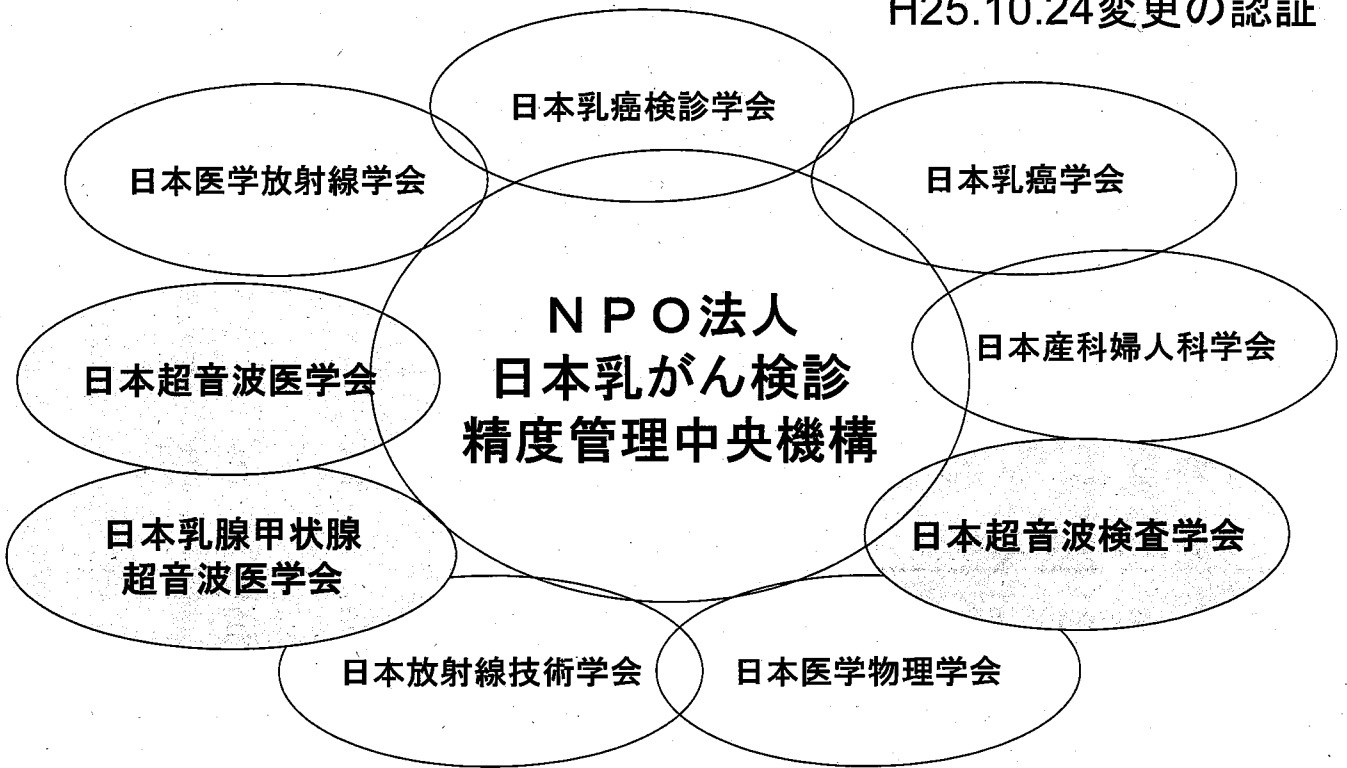
A・Bが講習会の修了を認定される実力との評価

読影部門：A+B=13,689名(77.1%)

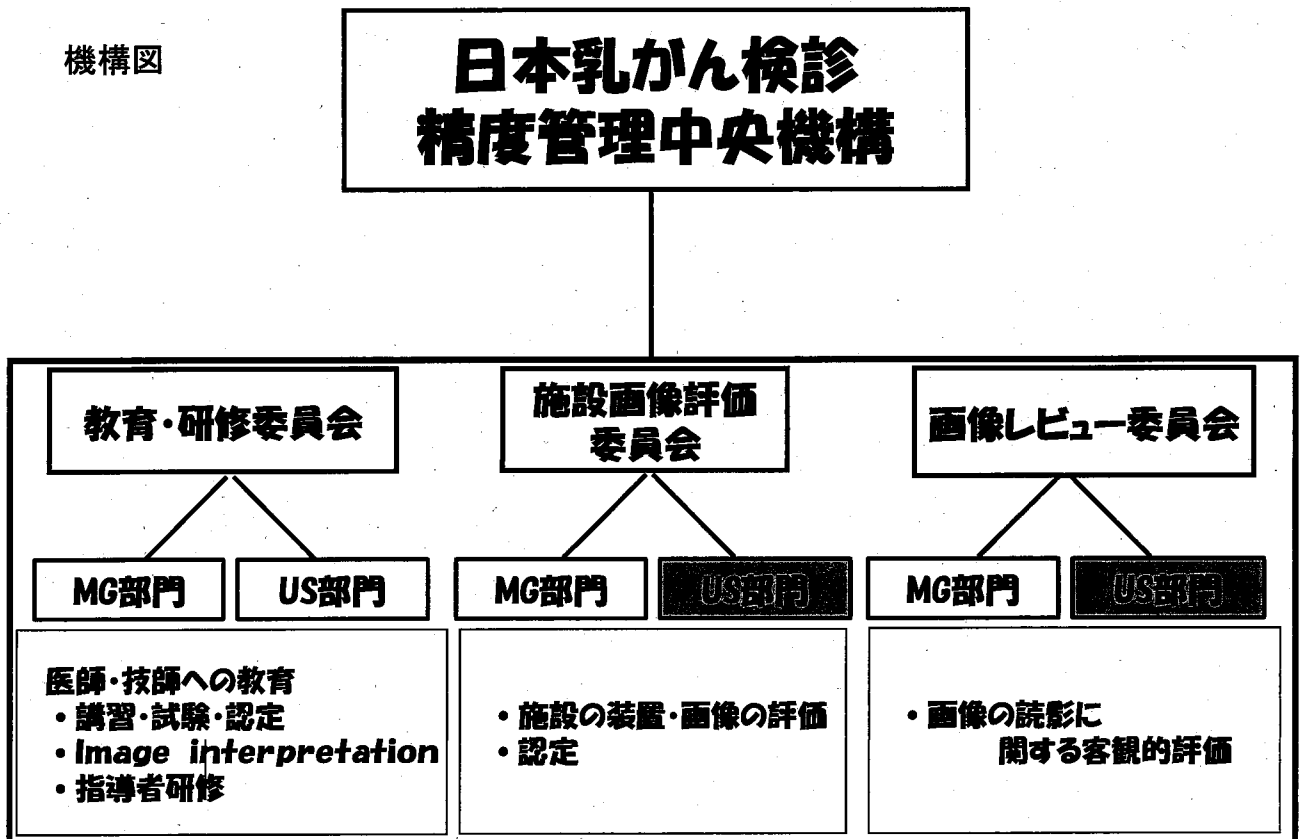
技術部門：A+B=13,429名(74.2%)

NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構へ

H25.10.24変更の認証



機構図



乳房超音波講習会プログラム

(2日間、定員42-49名)

講義

乳腺疾患の基礎知識
乳腺疾患の病理
乳房疾患の超音波組織特性
乳房超音波検査法
乳房超音波検査用語(1)
乳房超音波検査用語(2)
検診での要精査基準・所見の
記載法

グループ講習

腫瘍像形成性疾患(増強型)
腫瘍像形成性疾患
(中間型疾患・減衰型)
腫瘍像非形成性疾患
Hands on 1 (走査方法、
所見の記載、画像評価)
Hands on 2
(interventional technique)
病変を見つけるコツ
いろいろな病変の超音波画像

試験

(筆記試験)、動画試験、静止画試験

超音波部門 H25年度事業報告

講習会の準備委員会 4回

- 講習会 5回 (主催1回共催4回)
- 講師研修会 1回
- 学会共催企画
第22回検診学会

超音波部門 H26年度事業報告

- 講習会 9回 医師部門 4回
技術部門 5回
- 講師研修会 1回
- 学会共催企画
第22回乳癌学会
第23回日本乳癌検診学会

日本乳がん検診精度管理中央機構 乳房超音波講習会受講者と評価

(2014年12月31日現在)

評価	A	B	C	評価なし	合計
技術部門	852	1,083	800	159	2,894
医師部門	385	805	792	100	2,082

施設画像評価委員会の活動

- アナログ、デジタルのハードコピー、ソフトコピーによる画像評価・認定
- 単なる評価ではなく、技術指導による画像の向上
- 3年に1度の更新制

最近3年間の施設画像評価認定数

年度	アナログ	デジタル全体	デジタルHC			デジタルSC		
			Total	DF	CR	Total	DF	CR
2011	48	469	469	103	366	0	0	0
2012	38	505	475	101	374	30	24	6
2013	43	519	413	72	341	106	82	24
合計	129	1493	1357	276	1081	136	106	30

画像評価は3年有効 → 1622台は国内の撮影装置の約1/3

施設画像評価超音波部門

基準作りは早急に決定されるべき課題

乳がん検診の 精密検査実施機関基準の改訂

2014年 日本乳癌検診学会と日本乳癌学会

- 日本乳癌学会専門医(当面に間は認定医も可)で検査に習熟した者の下に行われる
- 診断用乳房X線撮影
施設画像評価・撮影技師・読影医師は精中機構の認定取得
- 診断用乳房超音波検査
日本超音波医学会の総合・乳腺領域専門医・体表検査士、
精中機構(またはJABTS)の2日間の講習会修了

まとめ

- NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構は乳がん検診とマンモグラフィ・乳房超音波に関連する9学会の代表からなる精度管理団体で、マンモグラフィと乳房超音波の精度管理を通して乳がん検診の精度向上を図っている
- マンモグラフィに関しては、医師および技師の教育と評価、装置・画像の評価と指導を通して精度向上活動を実施している
- 乳房超音波の講習会の受講者は医師・技師合せ4,800名余となっており、教育体制は確立しているが、評価体制や実施体制については、今後、更なる検討が必要である

